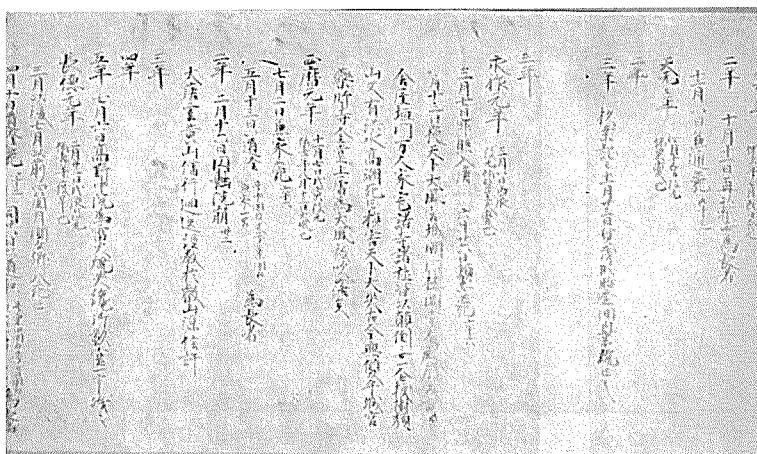


昭和四十八年十月二十五～二十七日

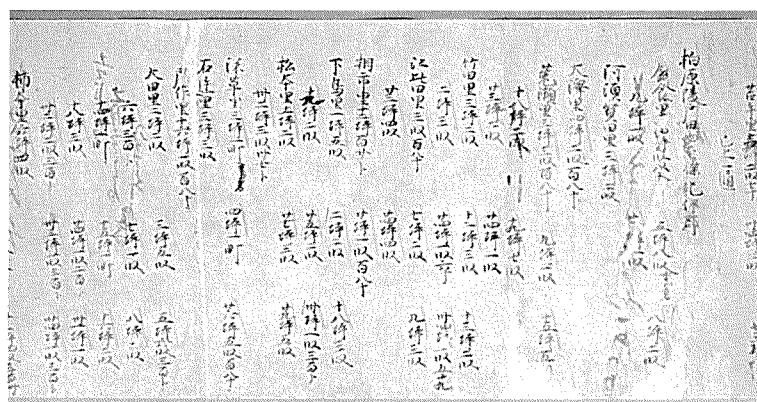
柳原家旧藏本 展示目録

宮 内 序 書 陵 部





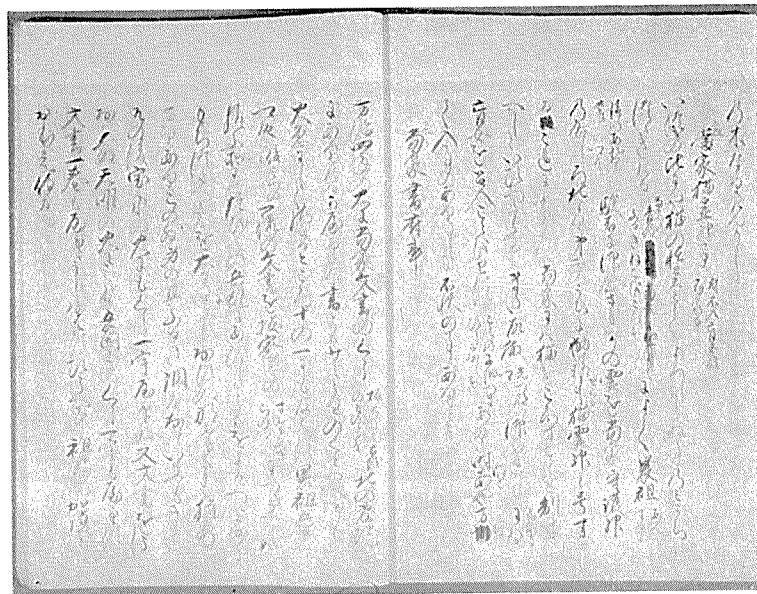
四 年 代 記 斷 簡



## 六 山城国陵田坪付



一五 五壇法日記



二四 開窓自語

一 水左記(承暦四・正十二)

源俊房記

自筆

二卷

特三

二 小右記断簡 長元三・六

藤原実資記

鎌倉期写

一卷

柳三

(卷頭遊紙、柳原紀光筆)

小右記  
長元三年八月  
秘

〔朱筆〕  
〔後日見或家自筆之口無相違  
実資公正筆無疑 可秘可愛 紀光譜書〕

三 中右記(天仁三・一〇一三)

藤原宗忠記

鎌倉期写

一卷

柳三

(卷頭遊紙、柳原紀光筆)

中右記  
宗忠公直筆  
墨付八枚  
極秘

天仁二年十月  
鑑文

四 年代記断簡(朱雀一  
三条天皇)

鎌倉期写

一卷

柳三

五 江家次第(卷四抜書  
除目)

鎌倉期写

一卷

柳三

六 山城国陵田坪付  
賀茂在忠

室町期写

一卷

柳三

右江次第上卷、三光院公系筆、一有子細議請了

享和元年四月 均光

六 山城国陵田坪付 永久元

建保五年写

一卷

柳三

(卷頭遊紙、柳原紀光筆)

山城國陵田坪付  
反古裏筆者賀茂在忠

右一卷、今度更加修覆了、頗以珍重、無比類物也、

又裏消息筆者不見之分陰之」

神祇權大副兼直 諸陵頭賀茂朝臣 參議定能

左少史中原國 木工頭 頭口 兼經 前筑後守為親」

大藏權大輔基 陰陽頭賀茂在憲 奉書在忠

明和九年三月十八日 八座左大丞 (柳原紀光)  
(花押)

(端裏書)

諸陵田坪付 在口 (花押)

(奥書)

建保五年六月三日任永久之帳一面、書写之、清書之一本者進國」司、  
草案之一本為子孫留之畢

陰陽博士賀茂在忠 (花押)

室町期写

自筆

一冊

柳 三四

七

曆 図  
弘治三

八 久守記 (寛正六・三・一十一二・一四(有欠)) 大沢久守記 自筆

(卷頭遊紙、柳原紀光筆)

柳 三三

修

得内藏寮官人久守記 (自筆)  
寛正六年三月

九 重保朝臣日記 天文一七・正・一、五 庭田重保記

自筆

一卷

柳 二三类

(表紙見返)

今度紀光<sup>柳原紀光</sup>□□□者也

明和九二十四八座左大丞<sup>(花押)</sup>

弘治二年校合

一〇 藤原氏系図

一冊

柳 二三

(奥書)

以他本加朱引、仍聊有參差之處、伝已下書譲多之、「」可改之

弘治二十三廿三引朱了「前大納言藤<sup>(番号)影朱印</sup>惟房」

二 九条家伝<sup>兼実政基</sup>

室町期写

一卷

柳 二三

三 東大寺八幡大菩薩驗記

积聖守記

建武三年写

一冊

柳 二三

(奥書)

右此一卷者、依難背貴命、不<sup>レ</sup>覃<sup>シベラニ</sup>三辭<sup>ニ</sup>愚意、任<sup>ニ</sup>管見<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>所<sup>ロナリ</sup>筆註<sup>スル</sup>也(中略)  
建武三年二月廿五日雨中染秃筆誌矣「积無二生奉<sup>一</sup>」

三 法華懺法(裏)書状

藤原師長口伝

元応元年写

一冊

柳 二三

(奥書)

元応元年五月三日以或人本書写之了「定惟

三

四

南北朝室町期写

一卷

柳  
三

积相覓記

自筆

一卷

柳  
三

积覓雄記

自筆

一卷

柳  
三

四大成弘安三  
応永二〇

五壇法日記応安六・一〇  
(裏)書状

一卷

柳  
三

武家五壇法記觀応元・六  
(裏)書状

自筆

一卷

柳  
三

(端裏書)

五壇法私記三世賀後  
(裏)書状

〔方宋印〕  
〔紀光〕

柳原資行日記延宝七・七・二二  
〔五〕

自筆

一冊

柳  
壹

(内扉、柳原紀光筆)

延宝七年資行「品御日記」年号不知、尤御筆也、七月議奏御役中歟

柳原資行筆

四冊

柳  
壹

八 文章要法

柳原資行著

自筆

二冊

柳  
壹

九 成句弁覽

江戸初期写

自筆

柳  
壹

十 柳原資廉日記宝永元・五・八・七・五

柳原資廉筆

四冊

柳  
壹

十一 柳原資堯月次詠草宝永六  
正徳六

自筆

一冊

柳  
壹

三 柳原紀光日記宝曆六一寛政元（有欠）

柳原紀光著  
寛政五十九年

自筆

三冊

柳  
三金

四 閑窓自語

柳原紀光著  
寛政五十九年

自筆

二冊

柳  
会美

五 砂巖

柳原紀光編  
寛政五十九年

原本

八冊

柳  
三金

(第三冊奥書)

右權記寛弘八年即位記已下、以或考古卷及反古等」取捨令書寫為一卷墨付、堅固可秘藏者

寛政八年九月三十日

正二位藤柳原紀光  
(方朱印)

〔花押〕

〔紀光〕

(第八冊奥書)

右以花輪檢校保已一本書之、校正了、可秘本在水戸

均光

六 繼史愚抄三十一年四月四日中清書出來

後陽成  
柳原紀光著

自筆

一冊

柳  
毛

(第三十五冊奥書)

寛政五年四月四日中清書出來

柳原紀光  
(方朱印)

〔紀光〕

(第四十七冊奥書)

寛政二年三月廿六日中清書出來

柳原紀光  
(花押)

〔方朱印〕

〔紀光〕

(第四十一位奥書)

寛政二年三月廿六日中清書出來

柳原紀光  
(花押)

〔方朱印〕

〔紀光〕

七 国史部類抄

柳原紀光編

自筆

九冊

柳  
毛

(第四冊識語)

寛政六年三月三日部類了、以夜次日三ヶ日令部類了、但可再校」正一位藤原紀光

三六 諸記名目類聚 いろは順 柳原紀光編 自筆 一冊 柳三

元 弁官補任 寛弘三  
文政九

柳原紀光等写(補写) 六冊 柳三

(第一冊寛弘六年記末 本奥書)

右補故前中納言入道頼言卿編集也、「請左金吾敬言卿、謫頭左中弁資矩」

朝臣、須臾被書写被送了

安永三年八月廿八日 権中納言紀光

(第二上冊正嘉三年記末 本奥書)

自順徳院御代勘考編集了、「為不詳可考而已」 頼言

(第二下冊文永七年記末 本奥書)

自御代始勘考補闕編集

(第三冊応永卅五年記末 本奥書)

考公卿補任及日次記等、編集尚有漏脱、俟「善本而已」 頼言

(同奥書)

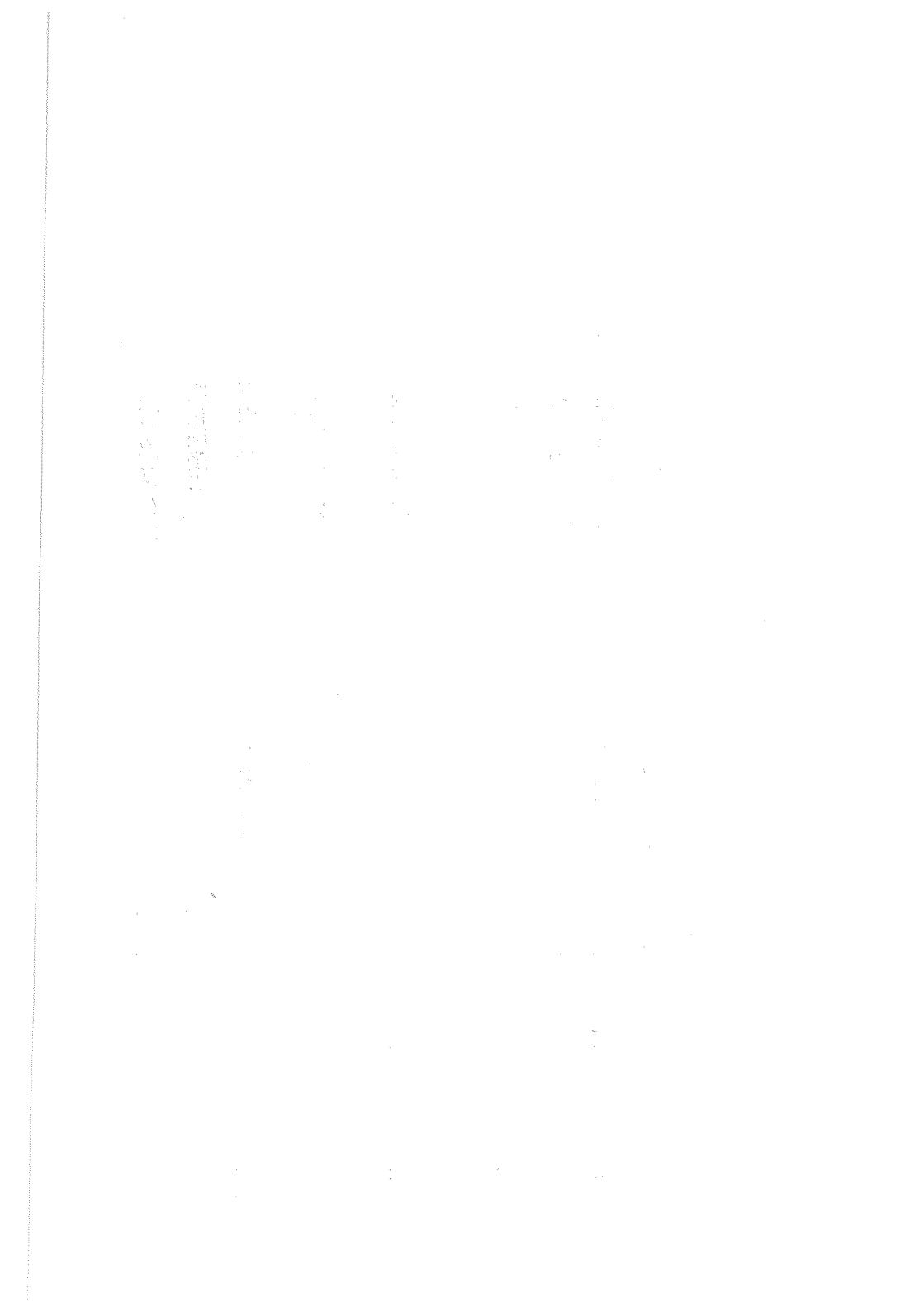
右以彼自筆令書写了、彼卿「大切也、可秘」

安永三十九一年權中納言紀光

(第五冊宝曆十二年記末 朱本奥書)

自後土御門院編集了、但「正親町院御一代」以古本書写了、「後年自後土御門院到元文五年、以他借本」一校了 頼言

三〇	東宮坊官補任	寛平五 貞和四	江戸中期写	一冊	柳	堯	
三一	歴代廟陵考	神武一 中御門天皇	江戸末期写	一冊	柳	堯	
三二	野山の歎き		伴林光平著	自筆	一冊	柳	堯
		(奥書き)					
		此外になほおばかりしかと、旅の往きかひにおほかた失ひつ					
		文久二壬戌年極月十日 伴林充平(花押)					
三三	柳原均光日次記	天明四 (有欠) 嘉和四	自筆	一冊	柳	堯	
三四	宣下類聚	治承四 (有欠) 寛喜元	自筆	一冊	柳	堯	
三五	柳原隆光日記	天保五 (嘉永四	自筆	一冊	柳	堯	
三六	光愛卿記	天保五 (有欠) 明治二	自筆	一冊	柳	堯	
三七	長慶後龜山兩天皇考	柳原光愛著	自筆	一冊	柳	堯	
三八	続日本後紀難語考	柳原光愛著	自筆	一冊	柳	堯	
三九	柳原家僕定	元治元・三	柳原光愛筆	一冊	柳	堯	



柳原家略系図

